

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00396

研究課題名（和文）現代アメリカにおける不寛容の言説と境域文化による多様性の再構築に関する研究

研究課題名（英文）Border Culture as a Strategy for Defying Intolerance and Revitalizing Diversity
in Contemporary US

研究代表者

喜納 育江 (Kina, Ikue)

琉球大学・国際地域創造学部・教授

研究者番号：20284945

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、国家の理念である「多様性（diversity）」や、20世紀後期のポストモダンの思想を機に重要視されるようになった「混濁性（hybridity）」といった文化的・社会的価値観に今日どのような事態が生じているかについて、「境域」の文学の言説や文化表象の分析を通して究明することを目的とした。特にカリフォルニアを中心に、アメリカ合衆国の中でも人種や文化の多様性と混濁性に富む地域で、今日のアメリカの政治的状況の中で勢いを増す「不寛容（intolerance）」の言説に、他者への想像力がどのように対峙しているかを考察し、21世紀にアメリカの文学や文化が直面している課題の展望を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、「自由」や「民主主義」といった、アメリカ人の根幹をなす思想と、それを体現するアメリカ社会やアメリカ文学が、21世紀に入って、さまざまな要因による影響で、どのように変容しているのかを究明するとともに、なぜこうした価値観の普遍性が担保できないのかという社会的理由を追究する。このことは、アメリカ社会にのみ通用するものではないと考えられ、我が国の社会のあり方にとっても有用な分析になるとと思われる。

研究成果の概要（英文）：This research aims to explore what is happening to cultural and social values such as "diversity" upheld as the national ideals in the U.S. and "hybridity," which have become increasingly important as it emerged as postmodern thought in the late 20th century. Through the analysis of literary discourse and cultural representations of "borderlands," particularly focusing on regions rich in racial and cultural diversity and hybridity, such as California, within the United States, the study intends to examine how the discourse of "intolerance," which is gaining momentum in today's American political landscape, confronts imagination towards others. It attempts to provide a perspective on the challenges facing American literature and culture in the 21st century.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ文学 diversity hybridity 境域文化 不寛容

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の研究開始当初の背景には、21世紀に入って顕在化したアメリカのポピュリズムと多様性への不寛容の言説があった。2001年の同時多発テロ、2005年のハリケーン・カトリーナをはじめとする自然災害による莫大な経済損失、2008年のリーマンショックから国際的に波及した金融危機など、21世紀のアメリカでは、それまで誰も予想しなかった出来事が次々と起こり、アメリカ社会の将来に対する人々の不安を増大させた。そのような状況下で2009年にバラク・オバマが大統領に就任したことは、アメリカの歴史の中で途切れることなく続いていた人種問題に、20世紀後半になって興隆した多文化主義などが国民の意識に一定の変革をもたらした成果であるかのようにも見えた。しかし、その後、メキシコとの国境に全長1600キロにも及ぶ壁を建設して不法移民を取り締まるという過激な移民政策を公約に掲げるドナルド・J・トランプが第45代アメリカ大統領に選出されると、それまでの歴史で差別の解消を目指して「寛容 (tolerance)」の精神を涵養してきたアメリカ社会の風景は一変した。

2. 研究の目的

上記のような昨今のアメリカ社会の変容をふまえ、本研究は、これまで移民をはじめとする「トランスナショナルな他者」に対する「不寛容」な態度を克服しながら自由と民主主義を成熟させてきたアメリカで、その国家的理念とは相反する「不寛容」な言説が、21世紀のアメリカ文学のテキストに与える影響について、人種、言語、ジェンダーなどの観点から究明していくことを目的とした。同時に、境域文化研究の知見から、アメリカが理念としてきた「寛容さ」で捉えた「他者」には「混濁性」や「越境性」の観点が欠如していたのではないかという問題意識から「寛容さ」の歴史的展望を明らかにすることも目的とした。

3. 研究の方法

「多文化主義」や「ポストコロニアリズム」など、20世紀後半に興隆した文学批評理論の枠組による20世紀の「境域」文学研究の成果をふまえつつ、本研究では、21世紀に入ってから発表された小説や詩、映像作品などの解釈や分析を中心的行った。当初は、アメリカ南西部の米墨国境地帯をめぐる境域文化論を、カリフォルニア、ニューヨーク、ハワイなど、太平洋や大西洋に開かれ、「多様性」や「混濁性」の高いトランスナショナルなコミュニティを擁する他の地域の考察にも応用し、アメリカの多様な「境域」で醸成された文学を整理する予定だったが、2020年以降、新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなり、海外渡航制限を余儀なくされたため、やむを得ず研究方法を変更することとなった。具体的には、渡航して収集する予定だった情報については、ハワイやカリフォルニアの書き手や研究者とオンライン会議を行うことによって入手した。文献収集についてもオンラインを活用して遂行した。

4. 研究成果

21世紀のアメリカ社会において「境域性」や「越境性」を包含する「寛容」と「不寛容」がアメリカの文学や映像のテキストにどのように表現されているかを究明する上で、当初はそうしたテキストがどのような人間関係の中で生まれているか、すなわち作品の生まれる共同体を、その共同体の存在する場所 (place) や位置 (location) と不可分の関係にあるとする想定のもと、考察を深める予定だった。ところが、当初のこうした仮定を揺るがす出来事が、この研究を開始した翌年に起こった。パンデミックである。したがって、本研究の視点や成果はパンデミックの前後で異なる。これを念頭に入れ、本研究の成果をパンデミックの前後に分けて改めて考察し、研究を進める中で、研究開始当初の状況では到達できなかったであろう知見について述べていく。

(1) パンデミック以前 (2019年) の研究成果

1980年代以降、アメリカ合衆国において、最も顕著な形で国家の「不寛容」の発露となってきたのが米墨国境に関する言説である。チカーナの書き手であるグローリア・アンサルドゥーアが1987年の著書 *Borderlands / La Frontera: The New Mestiza* で、米墨国境を「第三世界が第一との摩擦で血を流している」と表現したように (p.5)、摩擦の主たる原因は米墨間の経済格差であり、米国内でメキシコ系アメリカ人に向けられる差別は、有色人種に対する人種差別であると同

時に、国家を超えた「階級」の格差が根底にある差別が、「不法移民」の「不法性」を糾弾することによって正当化されてきたという構造を有している。ドキュメンタリー映画 *Wetback* (2000) はこの傾向を指摘した映画であるが、2013年の映画 *Sin Nombre* (邦題『闇の列車、光の旅』) は、米墨国境における悲劇を日系人監督キャリー・ジョージ・フクナガが描いた点で、日系アメリカ人という出自をもつ監督が、「不寛容」な国家の影で夢や未来を奪われるメキシコ人の若者に寄り添った視点を提示している点で、「不寛容」に抵抗する言説であるといえる。

しかし、米墨国境域における「不寛容」は人種や経済格差に関する以外にも性差別によるものも顕著である。テキサス州エルパソから米墨国境を隔ててメキシコ側にある町フアレスで実際に起こっている連続女性暴行殺害事件も、チカーナやラテン系アメリカ人女性に対する暴力が顕在化した事件である。フアレスでは、1993年から2007年の間に460人以上の女性が、レイプされ、強盗された末に残忍な手口で殺害された。また、600人とも言われる女性たちが行方不明になっており、その犠牲者の多くがマキラドーラと呼ばれる工場で働く若い女性の労働者たちだった。

チカーナ作家のアリーシャ・ガスパー・デ・アルバが2005年に出版した小説 *Desert Blood: The Juárez Murders* は、米墨の境域で起こる性暴力や性的搾取にアメリカとの経済格差によって、より搾取的で暴力的なシステムを構築しながら、拡大化、あるいは凶暴化しているというのが21世紀アメリカの現実であると結論づけた。

(2) パンデミック以降(2020年以降)の研究成果

アメリカ南部における人種の多様化

パンデミックによる渡航制限が強化されると、本研究も必然的に文献研究を中心に進めることとなった。その間の研究成果の一つとして、従来、特定の人種の異文化接触領域として語られてきた地域の21世紀的な視点からの再考である。

本研究では、近年そうした再考の対象となっているアメリカの南部に注目した。アメリカ南部にとって、メキシコをはじめとする中南米諸国からのラテン系移民の増加は、19世紀の黒人奴隷制度から続く黒人の低賃金労働を新たに担う労働者の出現を意味していた。しかし、ラテン系移民の増加は、こうした経済の変化だけでなく、南部の文化的、言語的、人種的風景を一変させ、アメリカ南部が堅持してきた地域としてのアイデンティティを揺るがす要因ともなった。

Owen J. Furueth と Heather A. Smith も、ラテン系移民による“Nuevo South”「新しい南部」が“insular South”つまり他から孤立した、島国のような南部の“regional distinctiveness”を侵食していくと指摘している (Furueth and Smith, pp.4-5)。

New Southern Studies を「ラテン化する南部」という観点から論じているのが Claudia Milan (クラウディア・ミラン)だが、アメリカの南部及び南東部を表象してきた「ブラックネス」と、アメリカ南西部を表象してきた「ブラウンネス」に共通性があることを認め、ラテン系の存在によって「ラテン化」した南部を Global South として捉え直すことが重要であると指摘している (Milan, p.25)。すなわち、南部の「ラテン化」は、南部の「グローバル化」を意味し、それが「新しい南部」のイメージにも関わる重要な要素になっているということである。本研究では、南部出身のアフリカ系アメリカ人女性作家ゲイル・ジョーンズが1999年に発表した長編小説 *Mosquito* について考察し、その登場人物の分析から南部のラテン化が、特に南部文学の文学的想像力にどのような影響を与えていることを検証した。さらに、2021年に出版されたジョーンズの最新作 *Palmares* が、ブラジルに逃亡した黒人奴隷のコミュニティを描いていることから、ここにも黒人奴隷制度というアメリカの「不寛容」の象徴的汚点ともいえるべき側面とそれに抵抗する言説がトランスナショナルな「越境性」を包含しながら表現されていると解釈した。

カリフォルニアにおける境域コミュニティ

本研究では、パンデミック下における移動の困難への対応策として、カリフォルニアという地域に限定して「不寛容」の言説を、主に日系アメリカ人作家のカレン・テイ・ヤマシタの作品を中心に考察した。世界中のニュースが新型コロナウイルス感染症一色となる中、アメリカ社会に関しても、感染への恐怖によってコミュニティや人間のつながりが「通常 (normal)」な日常から切り離されると同時に、既存の人種差別も、それまでにはない理由で差別行為に及んだ。マスクをせずに公園でジョギングをしていた黒人や、中国系と同じ人種の特徴を有すというだけで日本人が地下鉄構内で暴行を受けた。

アジア系市民に対するヘイト (Asian hate) の顕在化は、歴史的に構築されてきた白人至上主義が感染症への恐怖とメディアの短絡的な情報に助長されて起こった犯罪であるといえるが、21世紀になってもいまだに古い人種観に執着するアメリカ社会の実態が明るみになった。

こうしたアジア人差別は、それまでカリフォルニアという多文化の集合する「境域」を日常として定着していた日系人コミュニティに、第二次世界大戦中の強制収容という民族的トラウマを蘇らせた。2020年に出版されたカレン・テイ・ヤマシタの短編小説集 *Sansei and Sensibility* には、アメリカ社会の「不寛容」に真っ向から抵抗するのではなく、一見同化とも取れる複雑に歪曲した態度で抵抗する日系アメリカ人コミュニティが描かれている。同書の一編“Japanese American Gothic”にある一節“‘So pretend for a moment you’re American. Pretend you’re Japanese. Pretend you’re nisei. Pretend you’re kibe. Pretend you’re sansei. Pretend if you mix and shake it up enough,

no one will know the difference, that even you won't know" (p.164) [「さあちょっとの間アメリカ人のふりをしてみよう。お次は日本人のふり。二世のふりをしてみよう。帰米のふりをしてみよう。三世のふりをしてみよう。ほら、自分には色々なものが混ざっていて、十分に混成されているふりをするならだれもその差を知ることなどできないし、自分自身だって知る由もないのだ」牧野理英訳『三世と多感』p.268] すなわち、「不寛容」は「本物らしさ (authenticity)」を求める思考が、対象を「偽物 (fake)」とみなしてしまうところに生じる偏見であることを示している。

思弁小説

パンデミック以降のアメリカ文学に特徴的なジャンルとして出てきたのがこの「思弁小説 (speculative novels)」である。日系作家の Karen Tei Yamashita はもとより、ナイジェリア系作家の Teju Cole や、中国系の若手作家 Charles Yu などの言説には、白人至上主義の時代遅れの偏狭さとは対極的な感性が示されている。これらの作家はアメリカとアメリカ以外の文化の境域で表現している。また、未だにアメリカ文学のアンソロジーにも収録されていない。従来言説を超えた発想で「不寛容」な言説に抵抗するというより、そうした言説を超越した語りを展開している点で、今後のアメリカ文学研究において重要なテキストとなるだろう。

以上が本研究で得られた成果の要約であるが、ポストコロナを経験した後は、インターネットのウェブサイトも含め、非伝統的なメディア (オーディオや映像) による新たな文学表現も模索されていることにも今後は留意しながら研究を進めていくべきであると考え。

引用文献

- Anzaldúa, Gloria. *Borderlands: La Frontera: The New Mestiza*. Aunt Lute, 1987.
- Furuseth, Owen J., and Heather A. Smith. "From Winn-Dixie to Tiendas: The Remaking of the New South." *Latinos in the New South: Transformations of Place*, edited by Heather A. Smith and Owen J. Furuseth, Routledge, 2006, pp. 1-17.
- Milan, Claudia. "Latin." *Keywords for Southern Studies*. Scott Romine and Jennifer Rae Greeson, editors. U of Georgia P, 2016, pp.179-88.
- Yamashita, Karen Tei. *Sansei and Sensibility: Stories*. Coffee House, 2020.
- カレン・テイ・ヤマシタ、牧野理英訳『三世と多感』小鳥遊書房、2023年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 KINA, Ikue	4. 巻 3.2
2. 論文標題 Indigenous Women's Storytelling in Resistance and Resilience: the Stories of Liglav A-Wu and Tami Sakiyama	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Okinawan Journal of Island Studies	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 KINA, Ikue
2. 発表標題 " 'This Thin Edge of Barbwire': Okinawan Women 's Struggles before and after Reversion"
3. 学会等名 University of Washington Japanese Studies Workshop（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KINA, Ikue
2. 発表標題 The Environmental Consequences of Declining Carnal Memories under COVID-19
3. 学会等名 7th International Symposium on Literature and Environment, East Asia（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 喜納育江
2. 発表標題 Gayl JonesのMosquitoに見る「境域」としてのLatinx Southの形成
3. 学会等名 第60回 日本アメリカ文学会 シンポジウム III
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ikue KINA
2. 発表標題 Site-Committee Sponsored Roundtable: Pacific Memories of War
3. 学会等名 American Studies Association Annual Conference in Honolulu, Hawaii, USA (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 喜納 育江
2. 発表標題 法律はどの女性の権利を守ってきたのかーDesert Blood: The Juarez Murdersにおけるチカーナの身体
3. 学会等名 九州英文学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Yoshihara, Mari, ed.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Hawai'i Press	5. 総ページ数 238
3. 書名 Unpredictable Agents: the Making of Japan's Americanists during the Cold War and Beyond	

1. 著者名 Hsu, Ruth Y., and Pamela Thoma, eds	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Modern Language Association of America	5. 総ページ数 250
3. 書名 Approaches to Teaching the Works of Karen Tei Yamashita	

1. 著者名 池上 大祐、波多野 想	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 200
3. 書名 島嶼地域科学を拓く	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------